

アーチ
課題分析委員活動報告
提案
(R3年度)



課題分析委員

| | |
|-----------|-------------|
| 畠山 リーダー | サポートセンターひまり |
| 笹本 サブリーダー | 三島市発達支援課 |
| 野田委員 | 三島市社会福祉協議会 |
| 橋本委員 | 知的障害者相談員 |
| 塩川 | 事務局 |
| 堀井 | // |
| 高杉 | // |

児童分野の連携について(三島の課題)

福祉分野

- ・学校は本人をどうみている？
- ・関係機関から色々な意見を聞きたいよ。
- ・同じ方針で本人を支援したいよ
- ・もっとスムーズに連携とりたいよ
- ・福祉についてもっと知ってほしいよ

幼保、学校関係 (保健、子育て分野)

現状

- ・学校では、基本的に児童の情報は保護者を通じて確認する事が多いよ。
- ・学校でも支援が必要な児童には校内で検討して対応しているよ。
- ・「福祉サービス」と聞いたことがあるけど、具体的によくわからないよ。

- ・福祉分野から見た課題を、幼保・学校関係はどう感じている？
- ・まずはお互い知り合いになって、お互いの役割を知る必要がある
- ・同じ課題意識が持てるように話ができる場が必要
- ・学校関係者をアーチに呼びたい

分野を超えた集まりで一緒に課題を共有し整理する



課題解決のための具体的な取り組み（研修等）の実施へ

成人期のサービス利用・就労における支援の課題

普段の支援でこんな問題があります・・・

- ・ 特別支援学校や、ハローワークからの紹介で、事業所がすぐに受け入れ可能と返事をしてしまい、相談支援事業所に計画依頼で来たが相談員の見立てと剥離しているケースがある
- ・ 利用者の希望が強すぎて他の情報が入らない、職員が希望を鵜呑みにしてしまう
- ・ 事業所内で不適切な行為が続いていてどう対応していいか分からない（性的な問題含む）
- ・ 特別支援学校の取り組みが事業所に引き継がれていない（伝えたにも関わらず活かしていないケースも）
- ・ 離職を繰り返す、事業所を転々としてしまい受け入れ先が少なくなっていく

- ・ 障がい特性について正しく理解していますか？
- ・ その人のことをどう捉えていますか？
- ・ 正しくアセスメントをして関わりを検討していますか？

どうしてこんな問題
がおこるのか

- ①支援者のアセスメント力の向上とスキルアップが必要！！
～障がい特性の理解とそれに応じた支援の提供ができる人材育成を～
- ②コミュニケーション濃度を高める取り組みが必要！！
～支援者間での情報共有、見立ての共有、繋がりの強化を～

課題分析委員からの提案

①人材育成チームへの提案

市内事業所のスキルアップには支援力のアベレージアップが必要

- ・ 本人の希望の把握力不足→アセスメント力のスキル
- ・ 障がい特性により生活が困難（周囲の理解、支援としての合理的配慮）→障がい特性理解スキル
- ・ ケース対応の共有化→共有、引き継ぎ情報の活用スキル
- ・ 情報の提供に差異がある→横のつながり & 情報共有引継ぎスキル など

②相談&サビ管プロジェクトの再始動が必要

- ・ 基幹と相談&サビ管プロジェクトでテーマを決めて、「ハローワーク」、「特別支援学校」、「生活介護」等の分野（テーマ）ごとに顔を合わせ課題について検討する場を作っていく。
- ・ 「ケース相談会」をやってみてはどうか。他事業所からの意見や、相談支援事業所からの意見など、視点を変えた意見をもらう機会があるとよいのではないか。専門機関なども巻き込んで（ASTA等）。
- ・ 通所系事業所が集まったの合同相談会をやってみてはどうか（知ること、利用することなどマッチングを目的に）。

高齢期の課題

8050問題（特徴）

- ・親子の精神的密着が強くサービス利用に至らない
（自分が面倒をみななければいけない。人に迷惑をかけられないという考えで問題が大きくなってしまい介入が困難なケースが多い）
- ・キーパーソンが高齢になり支援につなげるタイミングが難しい。

・包括と障がい（相談）で密なコミュニケーションが取れるようになり、ケースについて一緒に考えていけるようになると支援につながるのではないかと。

介護保険への移行（主な問題）

- ・スムーズに介護保険に移行できない（介護保険になると料金がかかる等の理由）
- ・障害福祉サービスと、介護保険サービスの違いについて理解不足からサービスが使えないことが生じる。等々

・ケアマネと障がい（相談）が繋がりが、分からないことを気軽に相談できるようになるといいのではないかと。
・スムーズに移行できる仕組みがあるといいのではないかと。

まずは包括を切り口にしてどう繋がれるかを基幹で検討する
（どう繋がりたいか、繋がる仕組み、目的の整理）

定期的に包括との集まれる場の形成。その場の中で出てきた課題をアーチへ上げる。

社会資源における課題(居宅介護)

- ・ 障がいの居宅介護支援事業所が増えない
- ・ 訪問入浴事業所が少ない
- ・ 同行援護希望者に対してヘルパーが少ない

そもそも今ある事業所でもヘルパーが辞めてしまう現状。
しかし利用希望者は増えており利用調整に時間がかかる。

- ・ 今ある居宅介護事業所・ヘルパーを支える体制作りはできないか？
- ・ 居宅介護の現場の声を聞く場が必要ではないか？

まずはサービス提供責任者から現場での課題を共有する場を作る
そこから出てきた課題からヘルパーを支える体制の検討を行う
(ケース相談会、ヘルパー資格保持者の掘り起こし、高齢分野との連携等)

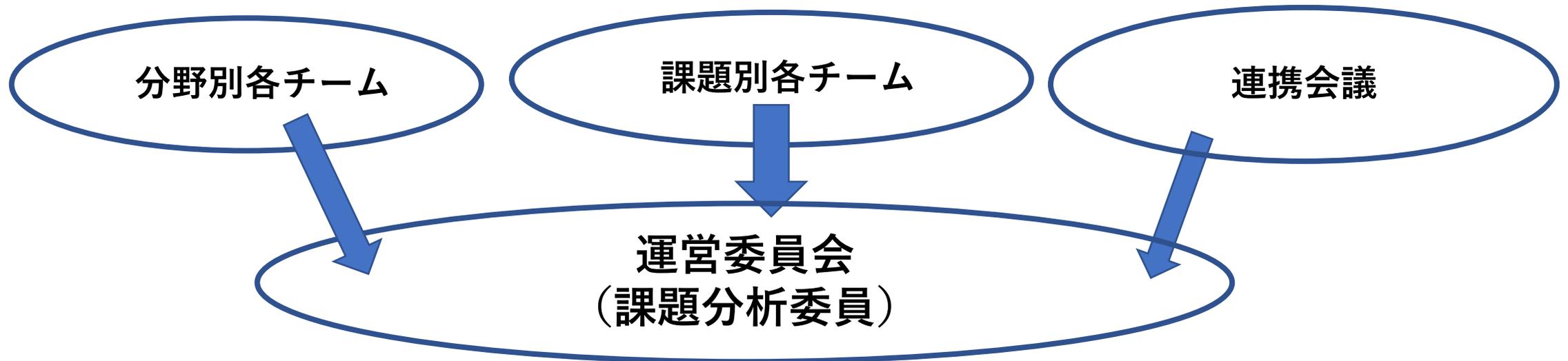
相談・サビ管チームでの取り組みへ提案

課題分析委員で新たに出てきた課題①

1. 発達障害の診断後の受容、特性への理解、対応について

具体的な課題は上がってきていないが、発達障害に関する支援の課題は、どのライフステージにおいても普段の支援の中で多く出て来ていることが予想される。そのため今後何かしらの取り組みを検討していく必要があると考える。

今回提案した、**児童分野での集まり、課題別チームの取り組みの中で発達障害に関する課題が出てきた際には課題を吸い上げる仕組み**を作り、課題分析委員の中で取り組みについて整理していくことを提案する。



課題分析委員で新たに出てきた課題②

2. 権利擁護に関する課題について

今回の課題分析委員の中では金銭問題のみ課題で上がってきたが、実際に支援の中では成年後見、虐待、意思決定支援等、障害の領域では欠かせない課題が多くあることが予想される。まずは**権利擁護に関わる業務を行う人達に集ってもらい、具体的な課題出しを行い、上がってきた課題の整理をしていくことを提案**する。権利擁護の問題は抽象的で範囲も広いため、**具体的なテーマや取り組みを設定していくことが必要**。
※テーマが広範囲、多岐に渡るためチームの進行方法の工夫（構造化した進行）が必要。

権利擁護に関する業務に携わっている関係者で現状把握を行う

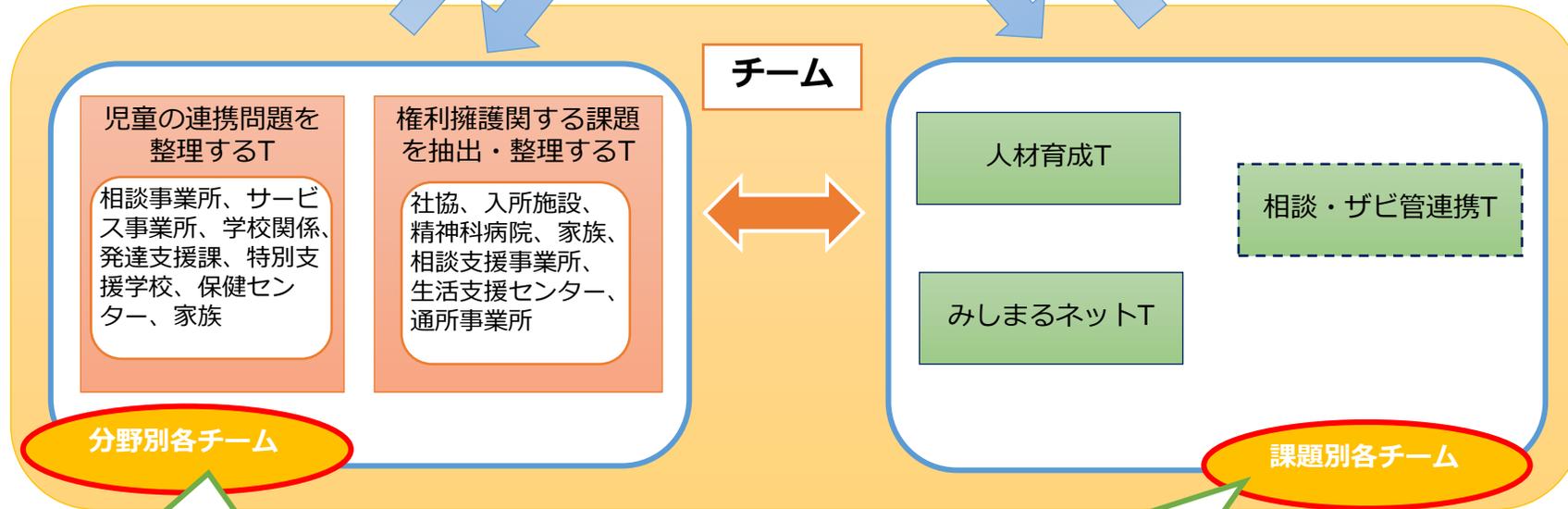
課題の吸い上げ、整理

課題解決のための具体的な取り組みの実施へ

構成提案



チーム・プロジェクト活動からも地域課題を吸い上げていく



分野別各チーム

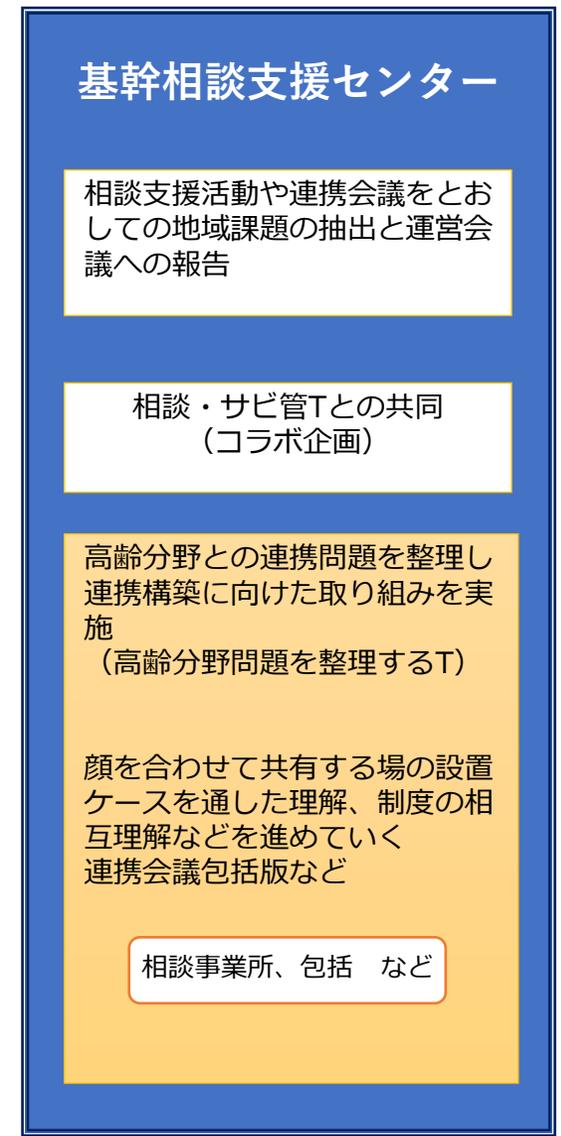
目的：広範囲に及ぶテーマのため、課題解決への具体的な取り組みを設定しやすいよう、分野関係者による共通理解のもと課題の再整理を行っていく

内容：まずは、関係者間が集まる場を設定し、相互理解、課題の共有、整理を行っていく

課題別各チーム

目的：テーマごとに整理された課題を解決するための取り組み内容、方法の検討
PTの設置運用

内容：課題の共有、解決方法の検討、課題解決に向けた取り組みのためのプロジェクトチームを作る。



アーチ(運営会議への提案)

三島市内で利用できる地活（地域活動支援センター）が無い



地活に活用できる資源の開拓など
(例：高齢分野の居場所からヒント)

広域にわたる地域課題への取り組み
(例：医ケアのできる事業所不足など)



圏域協議会との連携

- ・チーム、プロジェクトに参加しやすくなるために（協力を得やすくするために）
- ・アーチの活動内容を知ってもらうために



アーチの周知